

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	ねらいが明確な授業、ノート指導の徹底とICT機器の活用。	中間評価	ねらいを明確な授業を全学年で意識している。 ノート指導を継続。ICT機器の活用はできている。	最終評価	ねらいの提示と共に、授業の終末にねらいに沿った振り返りを行い、自己評価を促していく。教材提示型のICT活用はできているが、今後は、ムーブノートやオクリンク等の交流できるICTの活用も進めていく。
		落ち着いた環境整備と学習・生活規律の徹底。		各教室の掲示物や学習・生活規律が統一されている。 ロッカーの使い方を工夫し、学習用具を整頓する。		学年によって、規律の統一に課題が生じているので、担任だけではなく、全教職員で共通理解・共通実践する。

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	学 学習意欲は高く、発言も多い。ノートの書き方も習得している。平仮名は、全児童が習得しているが、片仮名の習得は不十分である。	<ul style="list-style-type: none"> 文を書くときに、助詞（は・を・へ）や促音、拗音を間違えないようにすることが必要である。 自分の考えを文にできず、書き進められないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語事項に関わる家庭学習を増やし、繰り返し復習できるようにする。 考えの書き方の定型文やポイントを理解させて、繰り返し練習させる。ペアでの発表を積極的に行う。 	言語活動の機会を、日記・日直による漢字問題づくり等、国語の授業以外の場でも設定し、児童が主体的に言語活動に親しむようにした。また、課題の多い児童には、個々に宿題を出し、家庭の協力も依頼して、繰り返し学習するようにした。これらの取組みを継続することにより、3学期の各単元の市販テストの結果によると、学級全体の言語事項の達成率が75%から90%に上昇した。	
	算数	学 学習意欲は高く、計算練習などには進んで取り組む。しかし、導き出した答えを言葉や図や絵で表現したり、説明したりすることに慣れていない。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考え方を友達に話したり、ノートに書いたりすることができるようにする。 問題の読み間違いや計算間違いをしないように指導することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、具体物を動かしたり、考えが上手に書いている児童のノートを写したりして、書き方を理解していけるようにする。 問題文を音読して、内容の理解を確実にしてから取り組むように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用場面を増やすことにより、児童に課題が具体的に伝わり、学習理解が確実にになった。 文章問題に取り組む際は、図やヒントがあるものから始め、少しずつ自力解決できるように問題の提示の仕方を工夫した。また、児童がペアになって、問題を出し合ったり、解答を説明し合ったりする機会を設け、主体的な取組みを増やした。さらに、「ずをつかっかんがえよう」の単元を学習した後、式と答えだけではなく、簡単な図も描いて考える機会を増やした。その結果、学級全体の85%の児童に、理解力の伸長が見られた。 	
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月） → 最終評価（2月）	
2	国語	学 平仮名、片仮名、漢字の読みは、概ね習得している。書きについては、まだ誤字が多く、また文脈に合わせて文章中で漢字を使うことに課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> 文章中に誤字や送り仮名や主語の脱字がないようにすることが必要である。 漢字や片仮名を正確に使って文章を書く力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取りや、観察カードなどを添削しながら回数を重ねて練習して、正しい表現を身に付けていく。 感想や気付いたことを書く機会を積極的に作り、数多く文を書くことで表現の力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取り、生活科の観察カードは誤字が減っており、正しい表現で書ける児童が増えた。 作文の練習をして、文の組み立てや表現の練習をしているが、考えをまとめて、それを文字に起こすことに苦手意識が見られるので、文章を書く練習を行い、添削していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の書き取りは正しい漢字が書けるようになり、学力定着度調査や、日常のテストでも誤答が少なくなった。 作文を繰り返し書いて練習しているので、話の流れや作文のきまりなどを意識して書ける児童が増えた。ただ、教科書の内容をまとめたり、箇条書きのものを文章化したりする力が弱いので、文をまとめる練習をする必要がある。
	算数	学 加法や減法の計算については全ての児童が習得している。繰り上がりや繰り下がりのある加減法の計算に苦手意識を感じている児童が見られる。 文章問題において、自分の計算方法や考えを図や絵で表現する力には、個人差がある。	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりや繰り下がりの計算の誤答を減らすことが必要である。 文章問題では問われている事を正しく理解し、考えを表すことができるようにすることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で問題を多く解かせるとともに、正しい手順で丁寧に解いていくように習慣づける。 問われていることをその都度確認しながら立式する練習を授業に取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題をあまり読まず、速く解くことに尽力して、作図の線が歪んでいても気にしない児童もまだ見られるが、速さよりも正確さを求める指導をして、全体としてはケアレスミスが減少してきた。まだ1間に時間をかけて手が止まっている児童も見られるので、短い時間で区切ったり、授業中に解く問題を絞ったりするなどして対応していく。 文章題では、どの数字を使うのか、問われていることは何かを確認しながら授業を進めてきた。素早く立式し、なぜその式になるのか説明することが増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を読んで、落ち着いて解く習慣はついてきたが、単位や時間の問題では、明らかな誤答でも気が付かない児童が多い。繰り上がりや繰り下がりの計算の誤答についても、見直しするように働きかけると誤りに気付く場合が多い。見直しの仕方や、見直しをする習慣に課題があるので、問題を解くたびに伝えていく。 文章題の立式も速くなり、説明できる児童は多くなった。自分が考えた解き方とは違う解き方で立てられた式について、なぜそのような式になるのか既習事項を使い、理解できるよう今後も指導する。
3	国語	調 平均正答率は区とほとんど同じ値であった。 調 領域別では「書くこと」に課題が見られた。 学 工夫して音読したり、新出漢字の練習に進んで取り組んだりするなど、学習への意欲は高い。しかし、既習の漢字の定着に課題も見られる。	<ul style="list-style-type: none"> 書く力が弱く、文章を構成したり、自分の考えを文章に表したりすることが苦手である。 漢字の定着が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業で登場人物の気持ちや、日常生活のことを作文に書かせることで文章として表現する力を養う。 新出漢字では、授業で取り組みそれに加えて家庭学習で練習することで定着を図るとともに、既習した漢字については、文章の中でも的確に使えるよう指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことに苦手意識をもっている児童は多い。そのため、国語の授業で登場人物の心情を読み取ったことを書く活動を増やしたり、文章構成について学び書きたいことを整理して書いたりするよう丁寧に指導する。 既習した漢字をワーク等で繰り返し取り組ませることで誤答が減ってきている。新出漢字を一字ずつ丁寧に取り組み、家庭学習で練習させている。さらに、50間のワークテストを実施した際の誤答は、定着できるよう繰り返し取り組むようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 1月の学力テストの結果は、区の平均を上回っている。しかし、作文問題の正答率が平均を大きく下回ることから書くことへの技能が身につけていない。業では、各活動を重ねるごとに進んで文章を書く力は育ってきている。さらに、目的に即した文章が書けるよう指導をしていく必要があると考える。 漢字については、反復練習をさせて定着を図ってきたこともあり、今回の新宿区学力定着度調査の結果では、区の平均正答率を超え、結果に表れている。

		<p>調 全体的には、平均正答率は区より少し上回っていた。しかし、数式の意味を言葉で表現することが、あまりできていなかった。</p> <p>学 九九の習得が不十分であり、立式ができて計算に苦労することがある。また、自分の考えをノートにまとめることにも課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・式の意味を考えたり、自分の考えを図や式に表したりすることに課題がある。 ・確実な計算力をつけることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で立式の意味について考えさせたり、数直線やテープ図を用いて表現する方法を教えたりして、自分の考え方を表現させる。 ・計算ドリルに繰り返し取り組ませたり、東京ベーシック・ドリルを活用したりして、基礎・基本を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題では、内容をよく理解せずに解答し、間違えてしまう児童が多い。しかし、自分の考えを書いて説明する学習活動を増やすことで、自分の考えを整理し、正答を導き出す児童が増えてきた。 ・既習事項について、家庭学習や東京ベーシック・ドリルの活用により基礎・基本の定着をさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の学力テストでは、区の平均正答率を超える結果となり、これまでの学習がある程度身に付いていることが分かる。式の意味を考えたり自分の考えを図や式に表したりする学習活動を継続的に取り入れることで、ノートに自分の考えを書き表すことができるようになった。しかしながら、たし算・引き算の領域の正答率が低く、特に3桁の計算では、位をそろえることや繰り上がり・繰り下がりなど誤答があり、気を付けて丁寧に計算させる必要がある。
		<p>調 「話す・聞く」「読む」では、目標値よりもやや上回っていた。しかし、「書く」領域では、目標値を下回っていた。文字数や段落の指定がある問題に誤答が多いという課題が見つかった。</p> <p>学 全体として新出漢字を意欲的に学ぶが、既習漢字の定着には課題も見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を構成したり、自分の考えを文章に表したりすることが的確にできるようになることが必要である。 ・既習漢字の定着が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回の作文活動を行い、文章構成能力の向上を図る。また、書く学習において、学習感想を書かせるなどの作文活動を多く取り入れていく。 ・前年度までの漢字の復習を行ったり、新出漢字について書き順や使い方を詳しく抑え、定期的な漢字テストを行ったりすることで、漢字の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文活動によって文章作成能力に向上が見られた。家庭と連携して週一回の作文活動を継続して行うとともに、授業の中でも自分の考えを書かせる機会を増やしていく。 ・既習漢字を使うことができていない児童が多いため、国語の時間に、毎回漢字5問テストを取り入れて既習漢字の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査の結果では、区の平均正答率をやや下回った。 ・自分の考えを書かせる機会を増やし、週一回の作文活動を続けた結果、少しずつ分かりやすい文章が書けるようになってきた。 ・毎時間の5問テストを続けた結果、既習漢字が定着してきた。新宿区学力定着度調査の結果も、前年度より平均正答率が7点上がっている。一方、定着が見られない児童には、個別指導が必要である。
4		<p>調 基礎力は定着してきている。しかし、活用力は、標準スコアよりも下回る結果であった。</p> <p>学 領域によって前学年までの既習内容の定着が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を的確に把握することやかけ算の筆算やあまりのあるわり算が確実にできるようになることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文をよく読ませ、求めることを確認させる。また、答えにたどり着くまでの考え方を必ずノートに記述させる。 ・単元ごとに児童の習熟度を確認し、前学年の内容を取り入れながら授業を展開する。問題演習や単元末テストでつまづきを早期に発見し、個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を繰り返し読ませることで、問題を理解して立式や計算に取り組む児童が増え、正答率が上がった。まだ、考え方を図や言葉で表現する力はまだ十分でないため、表現方法を指導し、それらを活用できるようにしていく。 ・割り算の学習で既習事項が理解できていない児童が多かった。個別指導で筆算の仕方等について指導したが、定着していない。今後も継続して指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な考え方が全国平均を5点上回った。自分で立式してから計算するまでの過程を、正確に行うことが出来る児童が増えた。 ・計算力はあるが、問題文や図形から読み取ったことを記入する問題に苦手意識のある児童が多い。特に図形に関しては、垂直と平行の問題、図形から読み取る問題に課題が見られる。今後は、三角定規等を用いた測定や作図を通して理解を深めさせ、それらを基に台形などの図形の理解の定着を図らせる必要がある。 ・割り算の学習では、3桁の計算力に向上が見られた。全体的な正答率も前年度を上回っており、特に3桁÷1桁（余りあり）の計算では、全国平均を20点も上回る結果となった。一方で問題場面から、基準量と比較量を逆に読み取ってしまう児童が多かった。日頃から、数量の関係を数直線などの図に表し、基準量と比較量の関係を正しく捉えられるように指導しておく必要がある。
5		<p>調 区学力定着度調査の結果は、標準スコアを下回った。課題は、作文の標準スコアが下回ったことである。自分の考えを文章にする力を付けていくことや文章を書く機会を増やし、文章の読み合いをする中で優れた文章を共有させるようにする。</p> <p>学 既習漢字の定着には課題も見られる。</p> <p>学 読書への意欲があり、落ち着いて取り組む児童が多い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の中から、必要な情報を読み取ることに課題がある。 ・問われていることに正対した表現をすることや、書く目的や相手を意識した書く力を伸ばす。 ・既習漢字の定着が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を分解し、文の核として表現されていること、文が問うていることなどをつかむことを繰り返す。 ・「はじめ」「なか」「おわり」を明確にしたり、自分の考えを必ず入れさせたりするなど、日常的に取り組みせる。 ・条件に合わせた言葉選びを意識させる。 ・新出漢字や既習漢字の復習、読書活動の推進、丁寧なノート指導を繰り返し行う。文章の中で適切な漢字を使う機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の中心を見分けることに習熟してきた児童がいる反面、大まかな意味をとらえることも難しい児童がいる。説明文における問いと答えの関係をとらえられない場面もあった。段落ごとの読み取りを丁寧に言い、繰り返し指導していく。 ・文章を段落や場面に分けて書く力が育ってきている。 ・学習に関する本を教室に揃えたり、丁寧なノート指導をしたりしている。既習漢字を使って短文作りをする中で、正しく書く意識をもたせるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落や場面ごとの読み取りを繰り返し行ったことで、要旨や心情を捉えることができるようになってきた。今後は、文章が長くなっても内容をきちんと捉えられるように、文章の量を増やしていく必要がある。 ・全体の構成と段落ごとに書く内容の例を示したことで、目的や相手に合わせた文章が書けるようになってきた。 ・既習漢字を正しく使おうという意識が高まってきた。新出漢字の学習が2学期で終わったので、既習漢字の復習を重点的に行っていくことで、習熟を図っていく。

	算数	<p>調 ・区学力定着度調査の結果は、標準スコアを下回った。大きな要因は、図形領域の正答率が、目標値を下回ったことにある。デジタル教材を用いて視覚でとらえやすくする工夫をしたり、図形の実物に触れての個別指導を取り入れたりして視覚的、体験的に理解できるようにする指導をしていく。</p> <p>学 領域によって前学年までの既習内容の定着が弱い。</p> <p>学 発言意欲があり、考えの根拠を話すことも身に付いている児童が多い。</p>	<p>・全体の正答率から考えるとやや個人差が見られるので、習熟度に応じた指導が必要である。</p>	<p>・習熟度別指導で工夫して指導する。自分の考えを表現し、交流し合う学習を習熟度に応じて行う。</p> <p>・東京ベーシック・ドリル等を用い、繰り返し問題に取り組み、基礎・基本の確実な定着を目指す。</p>	<p>・学級内の学力差が大きく、基礎・基本の習得に不安のある児童がいる。2学年下の東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用して、どこでつまづいているか見つけ、解消に努めている。</p> <p>・朝学習で基礎・基本の定着に取り組んでいる。家庭学習においては、各児童の既習事項の定着度と課題についての共通理解が十分にとれていない面もあった。学力調査の結果をもとに、個人面談で、課題に合わせた東京ベーシック・ドリル等の活用法について説明し、学習状況の共通理解を図っている。</p>	<p>・習熟度別指導において、学習のつまづきに合わせた課題を用意し、基礎的なことに重点的において指導した結果、特に算数に苦手意識をもっていた児童の意欲や理解が高まってきている。</p> <p>・朝学習で既習事項の復習を行ってきたが、4年までの学習内容の定着にはまだ十分でない児童もいる。</p> <p>・個人面談で家庭との共通理解を図ったので、今後朝学習や家庭学習での算数プリントの回数を増やし、さらに既習事項の定着を図って行く必要がある。</p>
6	国語	<p>調 区の学力定着度調査では、区の平均を少し上回った。活用力よりも基礎の学習の定着が弱い。</p> <p>学 書くことに抵抗がある児童がいる。また、どう書き表せばよいのか、悩んでいる様子も見られる。</p>	<p>・文型などの言葉の学習の誤答、作文においては、無回答が多い。正しい漢字を書くこと、与えられた条件を正しく理解して書けるようになることが必要である。</p>	<p>・文型のプリントを定期的に家庭学習に出し、個別指導を行う。</p> <p>・週に2回程度、家庭学習で作文を出し、色々な書き方に慣れさせる。授業の中での書く場面では、習った漢字を書くように助言する。</p>	<p>・全国学力・学習状況調査では、漢字の書きに課題が見られた。既習の漢字プリントを家庭学習に出したり、習った漢字で書けないものは辞書で調べたりして、自分で直すようにしていく。</p> <p>・文章を書くことについては、意欲的に書けるようになった。書く材料となる語彙を増やしていくために、意味調べを行うようにしていく。</p>	<p>・学力定着度調査では、全国平均を上回った。また、課題であった漢字の書き取り問題の正答率は昨年度に比べ上がった。毎日の家庭学習や、間違った漢字は辞書を引いて調べるという習慣が、定着につながったと考えられる。</p> <p>・作文では、自分の考えがよりよく伝わる書き方ができる児童が増えてきた。その反面、定型の書き方のみの児童、文のねじれがある児童がいる。主語・述語・修飾語の復習プリントにも取り組ませが、改善するまでには至らなかった。</p>
	算数	<p>調 区の学力定着度調査では、区の平均を少し上回った。計算や図形の問題での正答率が低い。</p> <p>学 学習内容の理解、習熟について個人差が大きい。苦手な領域になると意欲が低下しがちである。</p>	<p>・小数の計算ミスをなくすことが必要。図形では、同じ図形を選び出すときに、細かいところまで確認して解く習慣をつける。</p>	<p>・図形を描く学習では、丁寧に一つ一つ指導していく。自分の考えをまとめる時間をしっかりと、筋道を立てて考えられるようにする。</p> <p>・東京ベーシック・ドリル等を用いて復習をする。授業の中では、ICT機器を活用し、既習を活かして自分の考えを発表できるようにする。</p>	<p>・既習の学習を生かして、自分の考えを書くことができるようになってきた。一方で、既習が定着していないことで、問題を解決できない場面も見られる。東京ベーシック・ドリルの診断を基に、個別のプリントを出し、基礎・基本を定着していけるようにする。</p>	<p>・定着度調査では、全体的に全国平均を上回ったが、図形の問題、特に対称な形の問題で、全国平均より下回る結果となった。3学期の復習問題でも、点対称につまづきの多い児童が見られたため、点対称と図形のプリントを配布し、取り組ませた。</p> <p>・東京ベーシック・ドリルを使って、一人一人の課題に応じた復習プリントに取り組ませた。自分の躰きを把握し問題に取り組んだり、進んで質問して理解しようとしたりする児童が増えた。</p>
	音楽	<p>学 意欲的に学習に取り組んでいる。音楽の諸要素と関連づけて自分の感じたことや気付いたことを伝えることに課題がある。</p> <p>・歌唱では、のびのびと歌える児童が多い。中学年以上では、歌声を聴き合って二部合唱することに課題がある。</p> <p>・器楽では学年があがるにつれ技能面の個人差が二極化する傾向にある。</p>	<p>・リズムと拍の違いや音程や音の長さといった音楽の諸要素について理解することが必要である。</p> <p>・意識的に声をそろえる、友達と合わせることができるようになることが必要である。</p>	<p>・音楽の諸要素を掲示し、常に意識して見られるようにする。</p> <p>・発声練習を導入で取り入れ、響く歌声を意識できるようにするとともに、合わせて歌うようにする。</p>	<p>・p, mp, mf, fなどの強弱記号や音符について、高学年では意識して活用できるようにしている。今後定着できるようにする。</p> <p>・歌声を合わせることができるようになってきている。より声を響かせるために、姿勢、声の響き、口の形など具体的に指導していく。</p>	<p>・強弱記号から、コード、リピートなどの反復記号についても中学年以上で再度確認し、教室内に掲示して児童が進んで学習できるようにした。</p> <p>・歌唱では、口の形などの指導をした結果、音程や声の響きを合わせる意識ができてきている。今後も一人ひとりが声を出すことを楽しみ、体全体をつかって歌えるよう指導する。</p>
	図工	<p>学 造形活動に興味を持ち、楽しく意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <p>・道具や材料の扱い方についての経験や技能に差がある。</p> <p>・材料や道具に触れ、ものづくりを楽しむが、つくりながら発想を広げることが難しいことがある。</p>	<p>・制作の苦手意識をなくすことが必要である。</p> <p>・手順通りにつくるだけでなく、いろいろ試したり、工夫したりして、よりよいものになろうと追究する力を培っていく必要がある。</p>	<p>・基本的な道具や材料を扱う作品を作る経験を多く積ませる。</p> <p>・制作途中で他の作品や他の児童のアイデアを紹介する。</p> <p>・材料や用具を自分の表現に合わせて「選ぶ・試す」時間を確保するなど学習過程に工夫をこらす。</p>	<p>・継続して基本的な道具や材料に触れる経験を積ませる。また、身に付いたことは発展的に扱うようにし、技能向上を目指す。経験を積むことで苦手意識がなくなっている。</p> <p>・自分で材料等を選び試したり、友達の作品やアイデアを見て発想を広げられるよう継続的に指導していく。</p>	<p>・基本的な道具や材料に触れる経験を継続して積ませたことで、苦手意識をもつ児童が減った。また、身に付いたことを繰り返し扱ったり、発展的に扱ったことで児童の技能が向上した。</p> <p>・自分で材料等を選んで試すことや自然に友達の作品やアイデアを見ながら制作するような場の設定を行うことで、発想を広げる児童が増え、追究する力が培われてきた。</p>

特支	<p>学 学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い一方、指先の細かい操作や、情報を処理する力に課題がある。</p> <p>また、集中して人の話を聞くことや、自分から行動に移す力が育っていない。グループでの話し合い活動も苦手になっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指先の細かい操作や力のコントロールをすることが難しい。 ・教師や友達が話している時に、思いついたことをすぐに口に出したりせず、他の人の意見を聞いてから、自分の主張を述べるができるようになることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた教材を用い、楽しみながら手や指を使うようトレーニングをする。 ・授業中の話の聞き方や発言のルール「はい。(立つ)～です。」などを全校共通の指導とする。また、月1回の「聞く聞くドリル」を全学年で実施。聞く力を高める指導を行う。 ・1対1で相手の話を聞く(ペアトーク)活動の中で聞く態度や相づちの打ち方の指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手先指先に注意した課題を通して、細かなものの識別や細かい操作ができるようになってきた。 ・「はい」「立つ」「～です。」の話型を指導してから教室前面に掲示した。徹底するまではもう少しである。また、聞く聞くドリルを通して「聞く」ことの大切さの意識を高めた。「聞いて理解し行動する」ところまで高めていく。 ・友達の話を聞いて相づちを打てるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に比べると、指先をコントロールする力が向上し、筆圧が上がるなどして丁寧に字を書ける児童が増えた。 ・「はい」「立つ」「～です。」の話型を使って発言できるようになってきた。また、集中して聞けば相手の意見を聞くことができるようになった。聞く力の基礎力は付いてきたので、他者の意見を理解することができるようになることを目指すなどして、聞く力の応用力をつけて、話し合い活動の更なる充実を図っていく。 ・友達の話を聞いて相づちを打てるようになった。一方で、そこから自分の主張を述べることについては、引き続きの課題であると考えている。
----	--	---	---	--	--

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。